

2. 脳卒中

「脳卒中」の概要

■ 現状と課題

《現状》

- 年齢調整死亡率は全国より低い、受療率は高く、発症のリスク要因である高血圧性疾患の受療率も全国より高い。
- 介護が必要となった主な原因として大きな割合を占めることから、予防対策の推進が必要。
- 発症直後の適切な医療が患者の予後に大きく左右することから、救急体制の整備、医療、保健、福祉の連携強化が重要。

《課題》

① 予防対策の推進

② 医療連携体制の推進

■ 圏域設定

7圏域：和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮

■ 主な施策の方向

① 予防対策の推進

- 食生活や運動習慣の改善等の普及
- 脳卒中発症の前兆や発症時の早期受診の啓発
- こどもの頃からの疾病予防や適切な生活習慣についての教育
- 特定健康診査の実施率の向上・特定保健指導の推進

② 医療連携体制の推進

- 基礎疾患管理・・・地域での「かかりつけ医」の普及
- 発症直後の連携体制の確保・・・救急搬送体制の構築、救急医療体制の充実、急性期医療体制の整備
- 身体機能改善のためのリハビリテーション・・・地域リハビリテーション体制の充実
- 在宅療養生活のサポート体制の整備・・・医療と介護の連携を図り、在宅療養が継続できるような体制の整備、治療と仕事の両立支援の推進
- 新興感染症発生・まん延時等における医療連携体制の構築

■ 主な数値目標（令和11年度）

① 特定健康診査の実施率

令和3年度 48.9% → 70%以上

特定保健指導の実施率

令和3年度 23.2% → 45%以上

① メタボリックシンドローム

該当者及び予備群の減少率

令和3年度 平成20年度比10.7%減少
→ 平成20年度比25%以上減少

② 脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数

令和3年度 84件
→ 増加

② 脳梗塞に対する血栓回収療法の実施件数

令和3年度 102件
→ 増加

② 脳卒中地域連携クリティカルパスを実施している医療圏数

令和5年度 6圏
→ 7圏（全二次医療圏）

- 在宅医療の提供体制を強化するとともに、かかりつけ医、かかりつけ歯科医等による継続的な療養指導・管理のもと介護保険サービス事業所等と連携を図りながら、在宅療養が継続できるような体制の整備を促進します。
 - 医療機関に両立支援コーディネーターを配置し、産業医等の治療と仕事の両立支援に係る人材と連携し、脳卒中患者の就労支援を推進します。
- ⑤ 新興感染症発生・まん延時等における医療連携体制の構築
- 新興感染症発生・まん延時等の有事においても、地域の医療資源を有効に活用し、早期に専門的な治療が受けられるように、平時から関係機関の連携強化を図ります。

数値目標の設定と考え方

(1) 予防対策の推進

項目	現状	目標(令和11年度)	設定の考え方
特定健康診査の実施率	48.9% (令和3年度)	70%以上	第四期和歌山 県医療費適正 化計画の目標 値
うち市町村国保分	35.5% (令和3年度)	60%以上	
県内の特定保健指導の実 施率	23.2% (令和3年度)	45%以上	第四期和歌山 県医療費適正 化計画の目標 値
うち市町村国保分	20.7% (令和3年度)	60%以上	

全体の実施率：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導に関するデータ」
市町村国保の実施率：国民健康保険中央会「市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書」

項目	現状	目標(令和11年度)	設定の考え方
メタボリックシンドローム該当 者及び予備群の割合	30.8% (令和3年度) (平成20年度 28.0%)	平成20年度比 25%以上減少	第四期和歌 山県医療費 適正化計画 の目標値
メタボリックシンドローム該当 者及び予備群の減少率 (特定保健指導対象者の減少 率として算出)	平成20年度比 10.7%減少 (令和3年度)		

(2) 医療連携体制の推進

項目	現状	目標(令和11年度)	設定の考え方
脳梗塞に対する t-PAによる血栓溶解療法の実施件数	84件 (令和3年度)	増加	第2期和歌山県循環器病対策推進計画の目標値
脳梗塞に対する血栓回収療法の実施件数	102件 (令和3年度)	増加	
脳卒中地域連携クリティカルパスを実施している医療圏数	6圏 (令和5年度)	7圏	全二次医療圏

目標設定における第七次計画からの変更点

- 第七次保健医療計画で設定した「脳卒中での遠隔救急支援システムの活用医療圏数」は、7医療圏全てにおいて取り組まれており、目標が達成されたため、削除しました。
- 第七次保健医療計画で設定した「超急性期血栓溶解療法（t-PA）を実施する医療圏数」は、第八次保健医療計画では、急性期の専門的治療は、他医療圏の医療機関と連携の上、実施するとしていることから、目標項目を医療圏数から実施件数に変更し、「脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数」としました。また、同じく急性期治療である「脳梗塞に対する血栓回収療法の実施件数」も追加しました。